

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	教科（社会）

【題材】

「調べよう 物をつくる仕事」

【対象】

普代小学校 3年生

【実践の概要：単元の指導計画】

太平洋に面している普代村は三陸海岸を有し、豊かな海の恵みを生かしての水産業や、水産加工業が現在の村の基幹産業となっている。一方で村の歴史を紐解いてみると、生活の安定・向上を目指し、養殖や加工の工夫・改善に努めてきた先人の存在があって、今の人々の生活が営まれていることが分かる。そこで、地域で生産活動に携わっている漁家の仕事を教材として扱い、生産者の苦労や願い・工夫を自分たちと生活との関わりと関連付けて理解するとともに、豊かな村を願って努力を続けてきた人々の思いに触れることでこれからの地域づくりの素地を養うことができるようになると思う。

時	ねらい
1	自分たちが住む普代村で作られている物産品に関心をもち、それは誰がどのようにして作っているかを調べる意欲をもつことができる。
2	海に面した普代村は漁業が盛んで、村内の漁港では豊富な魚介類が捕れることを知る事ができる。
3	普代では、季節に応じてワカメ漁やコンブ漁が行われていることや働いている人の苦労や願い、仕事の工夫を知ることができる。
4	普代の海で養殖として行われているワカメ・コンブについて、見学の計画を立てることができる。
5	ワカメ・コンブの養殖の様子を見学して、働いている人の願いや苦労、そして仕事上の工夫について知ることができる。
6	
7	見学して分かったことをまとめ、グループで発表しあうことができる。
8	
9	「すき昆布」作りをしている漁家の人たちの、買う人のことを考えた、良い製品にするための仕事上の工夫を考え表現することができる。
10	普代で捕れるコンブやワカメ、サケの輸送先や輸送方法を調べて、普代村の立地上の特徴や他地域とのつながりについて気付くことができる。
11	物をつくる仕事について調べたことをリーフレットにまとめることができる。
12	
13	



【実践の概要：第9時までの活動について】

3年生児童のうち、保護者が漁業に従事しているのは1名のみであることから、児童の間で漁業に対する認識や学習の経験に大きな隔たりがあることが予想された。そこで副読本を使いながら基礎的な内容を全体で押さえた後、船をチャーターして養殖いかだの様子を見学する活動を行った。初めて船に乗って船酔いする子もいたが、実際の養殖の作業の様子を見ることは、貴重な経験となった。



【授業の展開（第9時）】

○資料から分かることを見つけ、何のためにやっているのか考えましょう。

- ・ホースから水を出している。ムラができないようにするため。
- ・枠に押さえている。平らにするため。角にもきっちりと並べている。

○こうやって手間をかけて作ったすきこんぶですが、(次の資料を提示)最後に何をしているのでしょうか。

- ・すきこんぶが山のように積まれている。その後ろにおじさんがいる。
- ・おじさんがすきこんぶを見ている。・おじさんが1枚1枚調べている。

○何を調べているのでしょうか。

- ・ゴミがついていないか ・安全かどうか。 ・色や形がよいかどうか

○それは誰のためにやっているのでしょうか？

- ・すきこんぶを買うお客さん ・食べる人が安心して食べられるように

○実際に調べているおじさんの話を聞いてみましょう（VTR映像）。

- ・1枚1枚確かめるのは大変だけど、食べ物だから安全に気をつけているのが分かった。
- ・口に入るものだから、金属やゴミがついていないようにきちんと調べていることが分かった。



【単元終了後の児童の感想】

- ・1枚1枚丁寧に時間をかけて作ったり、プロの目で1枚1枚チェックしたりするのがすごいと思う。漁家の人たちが少なくなっても、負けずに頑張っているのもすごいと思う。
- ・はじめのうちは色や形が悪くて売れなかったけど、いまはすごく人気になってよかった。漁業をする人の数が減っていて、漁家の人は大変なので、昆布漁の仕事をする人がたくさん増えたらいいと思う。普代の昆布がもっとたくさん取れたらいいと思う。漁家の人たちも、これからも頑張ってもらいたいと思う。
- ・普代村のすきこんぶが、多くの人に食べられていることがすごいと思った。普代のすきこんぶは、自分も大好きだ。いいものを作ってくれている普代の人たちに感謝している。

【単元まとめのリーフレットを読んだ保護者の感想】

- ・すき昆布についてよく調べたと思います。写真付きでとても分かりやすかったです。
- ・完成度が高く驚いています。丁寧に、そして分かりやすくまとめていて読みやすかったです。
- ・毎年お手伝いしている作業ですが、これまでは自分のお手伝いする所しか分かっていなかったようです。更に興味がわいたようで嬉しく思いました。
- ・おいしく食べてもらうために漁家の人が頑張っていることが改めて分かりました。息子が書いたように「普代に感謝して」そして作ってくれる人に感謝してこれからも食べようと思います。

【実践のまとめ】

社会科における地域教材の開発と復興教育の関連付けを図る実践だった。地域の産業や人について学ぶことが「地域づくり」という復興教育の価値につながることで、単元終了後の児童の感想からも確かめられた。単元指導計画に位置付けることで来年度以降も同様な指導が図られるようにしたい。